



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities

会報 第113・114号 合併号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F

URL <https://www.jald.or.jp>



主な記事

- ・巻頭言：コロナ禍こそ必要な「発意」と「熱意」
- ・新型コロナ影響下において思うこと
- ・文部科学省 令和2年度予算の概要
- ・厚生労働省における令和2年度の発達障害者支援施策
- ・〈連続講座〉新学習指導要領時代における学びの多様性をいかにするための一貫した支援
- ・〈大会特集〉第29回大会（兵庫）事前講義
- ・PATIO～実践の最前線～



コロナ禍こそ必要な「発意」と「熱意」

九州ルーテル学院大学

河田 将一

障害児教育の歴史という文献に、障害児教育は「個人の発意と熱意が成果を得て、集団の事業に発展してきた」（中村，2003）との著述がある。

先達が目の前の子供たちに適切な教育を提供するために、数多の制限・制約のある中で、「発意」を持って教材や教育方法の開発に創意工夫を重ね、それらを用いた教育の展開に「熱意」を注ぎ続けた営みは、現在の障害児教育の礎となっている。

先日、ある教育委員会の特別支援教育に関する年間計画が見直しされ、今年度の教員研修を「すべて中止する」との報告を受けた。コロナ禍の対応として受け止めてはみたが、最善かと言われれば何だか釈然としない。

新しい行動様式・生活様式を取り入れた教育と支援が最優先課題となっているが、従来のやり方での活動や行事が極めて困難な状況にある中に、私たちはこの課題と向き合うために知恵を絞る必要がある。

困難に立ち向かうために知恵を絞るには、相当

な時間や労力を要し心身の負担を伴う。ましてやこれまで同様の活動ができなければ、満足感が得られずに、「～しよう」という「発意」が衰退し、「～していこう」という「熱意」も続かずに、一気に「中止」の方向に舵を切ってしまう。

子供の不適切な行動への対応の一つとして、それに代わる適切な行動（代替行動）を強化することがあるが、代替行動は必要に応じて支援者が教示したり、子供と一緒に考え出してきたはずである。そこには、「どうにかしよう」という行動の改善に向けた「発意」と、前進させようと取り組む「熱意」を持って知恵を絞るという教育や支援の本質的な営みがある。

子供たちが持つ可能性は彼ら自身の「発意」と「熱意」によって広がっていくが、コロナ禍に停滞させずに可能性を広げるためには、一気に中止の方向に舵を切るのではなく、教師が「発意」を持って創意工夫を凝らし、苦難の中に少しでも物事を前進させる「熱意」を彼らに示していくことが肝要ではなかろうか。